

竹取新聞

株式会社 カグヤ

東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第84版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

聴き上手！

大阪府堺市にある初芝こども園様では、2年前から月に一度、『円対話』の実践に取り組まれています。

円対話は、1か月を振り返り、理念実践からの気付きを一人ずつ話し、仲間の気付きに耳を傾け、初心に立ち戻る実践です。そんな円対話の議事録を読ませて頂くと、参加された先生の声に「在園児が新入園児の話をお聴きのが上手で、トイレや着替えなどよく手助けしてくれる」という、子どもたちの「聴き上手」なエピソードがありました。

実は…、そんな聴き上手は子どもたちだけではありません！先生方も聴き上手なのです！この円対話でも、進行役を務める先生方は、「皆がリラックスして心地よく話してもらえよう」と場づくりされています。先生方の円対話の準備シートには…、「心を込



園の教育・保育目標は「仲間とともに、生き生きと活動する子」

仲間の気持ちに寄り添う、聴き上手！

助け合い

茨城県八千代町の八千代保育園様にお伺いした時の事です。

異年齢にする何が変わったのかと言う事を主任の伊佐先生がお話くださいました。

今までの年齢別だと、お友だちも基本的には同じ学年の子ども達でしたが、異年齢になると、3歳の子は4歳児と仲良くなり、卒園する時には、自分より下の3歳4歳の子ともたちと仲良くなっている

ので、小学校に入った途端に、2・3年生にもお友だちがいて、小学3年生になると、1年生から5年生まで、ほとんどが友達に。そしてそれは、親も同じだそうです。

異年齢になると、親も年齢を越えて関与します。入園したばかりの保護者に、ベテラン保護者が助けるという自然な姿が子どもたちと同じように、生まれるそうです。年齢別

から異年齢にするだけで、お友だちになれる機会が5倍に。親も子ども助けられる機会、助ける機会が自然と生まれるということ。

「お蔭ですごく園の運営が良くなったんです。本当に、子どものお蔭様、保護者のお蔭様、先生のお蔭様なんです。」と仰る先生の言葉には、私もその子どもたちの育つ力や、保護者、先生方を信じる強い心を感じます。

私たちクルーも日々感謝を忘れず、謙虚に社業にまい進したいと思っています。

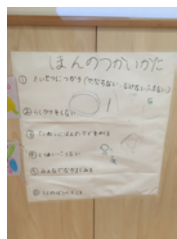


子どもを中心に保護者も保育者も共に助け合い、育ち合う環境はお蔭様の心から。

環境に置き換える

埼玉県桶川市にある桶川こども園様にお伺いすると、絵本ゾーンの壁に「ほんのつかいかた」という紙が貼り出されており、この環境についてのエピソードを教えてくださいました。

子どもたちはみんな絵本が大好き。でも、読んでるうちに絵本がだんだんとボロボロになつていくため、子どもたちはどうしたらいいのかを話し合い…「よし！ほんのつかいかた、決まり！」と6つのルールを決めたため、先生が「紙に書いて貼ってみる？」と提案すると、早速貼り出したのだそうです。先生方は子どもたちに直接使い方を教えたり、毎回やってあげることせずとも、「環境」が子どもたちに気付きを与え、子どもたち同士で絵本の使い方(扱い方)を大事にするようになったよい事例でした。



子どもたちが決めた6つのルール

先生方のように、私たちもやりたい想いに寄り添えるよう環境作りを大事にしていきたいと思っています。

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。



話過去、現在、未来...
年譜をもとに分かりやすく説明



当主より「ミマモルジュ」の授与。
身が引き締まります!

カグヤでは月に一度、全クルーやパートナーさんが集まり初心を確認する、初心会議を行っています。その中から今月から新しく「立志の時間」が設けられました。カグヤの理念である「子ども第一義」の世の中にするにはどうしたらいいか、こういう風に世の中を善くしていきたい、などの夢や初心を発表する場

立志の時間



徳の宝を用紙に記入して
徳宝箱に投票します!



初心会議の場で選ぶ様子。
どれも素晴らしい皆、真剣です!



七福神が今月の徳の宝を発表!
お囃子隊がお祝いします。

カグヤでは仲間の働きの中にある『徳の宝』を見つけて表彰する『徳宝酬』という実践を行っています。徳の宝とは「見返りを一切求めず誰かのために祈り、自分を捧げるような生き方の思いやり」のこと、そのような仲間の徳を見つけては用紙に記入し、毎月の初心会議の場でそれを表彰しています。

実践を始めた頃は「徳って何だろう?」とか、自分が直接してもらった嬉しかった「得」を記入することも多かったですが、やり続けることで徐々に意識が変わり、「徳」がたくさん見つかるようになっていきました。いつも陰ながら仲間の徳の宝を支えられ、助けられ、励まされていることを強く実感するようになり、初心会議の場で徳の宝が読み上げられるたびに、「あの人が素晴らしい!」ではなく、全てが「カグヤの徳」と感じられ、そんな仲間と一緒に働けることが誇りに思っています。こんな風に仲間の徳行を皆で味わえるその喜びがまた新たな徳の宝を生み出しているのかもしれない。徳を観るまなざしを皆で磨いていきたいと思います。

徳宝酬

記念すべき初回の発表に立候補したのはカグヤで一番若手のクルー。カグヤ入社に至った志から、今現在、そして初めて明かされるこれからの展望を語る姿からは、子どもを中心とした世の中に身を置く覚悟と自信を感じました。同じ目標へ進んでいく仲間の頼もしい姿に、心熱くなる時間となりました。

また、その日はちょうどそのクルーに新しい肩書き「ミマモルジュ」を贈るタイミングも重なり、それぞれの特性を活かした働きで「子ども第一義」を深めていこうと心新たに大きな一日でした。

一期一会庵

「家は日本の宝」

「先日、1700年創業で12代業業を商つてきた京都府下京区の伝統的商家の京町家「泰家」を見学するご縁をいただきました。ここ「泰家」は幕末の大火で焼失後、明治2年に再建した伝統的京町家です。

建物自体は築140年ほどになりますが、代々続いている暮らしや文化、その生活の本質は300年経った今もなお同じように実践継続され「家の息づかい」を感じました。数時間ほどの滞在でしたがそこには確かな「場」のチカラを実感することができました。

ここに道る「場」は、300年の年月をかけて時代の篩いにかかれ良いものだけが取捨選択され代々主人が温故知新してきた貴重な「場」です。家はその主人の心遣い(理念)によって形成され、その家屋の中での一緒に暮らす人たちの心掛け(理念)の実践によつて家風を醸成しそれが文化になっています。

現在、古民家町家は古いだけで価値がないと駐車場になったりマンションを建てたり、ものすごいスピードで解体されているので、皆で料理を味わい深めていこうという思いや、ちよと体調不良だったクルーを心配して「調子が良くなれば」と用意してくれたもの。こんな仲間のようにな、ただ担当だからやるということではなく、真心ある働きを大事にしていきたいです。



初めてのアイヌ料理
「オハウ」に仲間との
会話が盛り上がりです!



真心のこもった
モーニングに朝から
心も体も温まります。

編集後記

今月も竹取新聞をご覧頂きまして、誠にありがとうございました。これから猛暑が続きますが、暑さに負けず子どもたちと充実した日々をお過ごしくださいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。